

資材の使用例

モミ殻くん炭	水稻	<ul style="list-style-type: none"> ○育苗床土の約10%位を目安に混合し播種を行なう事で、育苗箱の軽量化と建苗育苗の促進効果が期待される。 ○JAのもみ殻クンタン使用の時は、使用前にEM1号100倍液、EM3号100倍液に浸けて使用した方がより効果的です。
	畑作及びプランター	<ul style="list-style-type: none"> ○JAのもみ殻クンタン使用の時は、使用前にEM1号100倍液、EM3号100倍液に浸けて使用します。 <p>種まきの時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○播種する溝を作りEMに浸けたクンタンを置く。 種を蒔き覆土をしてから、EM1号1000倍液を散布する。 <p>苗の植え付け(定植)の時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定植用穴にEMに浸けたクンタンを置く。 EM1号1000倍液を散布する。 苗をEM1号1000倍液、EM3号2000倍液にポットごとドボ浸けにしてから植え付ける。
EMモミ殻くん炭		○製造方法等は北陸EM普及協会ホームページで紹介しています。
EM7(植物活力剤)	水稻	○発芽してから育苗期間中に2~3回5000倍液にして葉面散布する。
	畑作等	○育苗期間中に2~3回5000倍液にして葉面散布する。 定植後、2~3日ごとに散布します。病害虫の発生など、植物の活力が落ちていると思われる場合には、植物の持つ抗酸化力を引き出すように3日ほど連続して散布します。
雑草抑制	水稻春処理用EM 20ℓ/10a×2回	○代かき後浅水管理を行ない、5月中旬頃水温が25℃前後になっているのを確認し流し込み等を行なう。 コナギの発芽に約10日から15日位かかるので、田植えの時期に合わせて使用する時期を決める。 田植えまでにコナギが繁茂したときは中代掻きで対応する。
	農産発酵こつぶっこ (6.0・4.2・2.0) EM米ぬかボカシペレット (2.8・4.7・2.3) 米ぬかペレット (2.0・3.7・1.4)	○田植え時又は田植え後に窒素成分で約3%/10a散布する事で、苗の初期生育促進とトロ土形成を促進して、コナギ等の種子を埋没し発芽を抑制する。(ほ場の肥沃度やトロ土形成状況等で散布量を決める)
登熟向上	光合成細菌活性液	○ドロオイ虫やイネミズゾウ虫、ウンカ、イモチ病菌予防にEM1号と併用して使用する事で登熟向上等の品質の向上も期待できる。 カメムシの予防にEM1号と併用して使用する。
追肥・穂肥	農産発酵こつぶっこ 30kg/10a (6.0・4.2・2.0) EMボカシ米ぬかペレット 60kg/10a (2.8・4.7・2.3)	<ul style="list-style-type: none"> ○稲の生育状況を確認しながら必要と思われる所へ30kg前後/10aを数回散布する事で生育を促す。 ○各資材散布後にEM1号1000倍液を流し込み等を行なう事により品質の向上も期待できる。
土づくり	水稻秋処理用EM 10ℓ/10a	○収穫後の稲わら、稲株等の有機物の分解を促進して、コナギ等の発芽抑制する。また、毎年継続して施用する事でヒエの種子の発芽が抑制されていく。
	つちもりもり君 (1.4・1.4・1.7)	○収量が少なく腐植の少ないほ場に毎年300kg/10a散布する事で腐植を補い育土を行なう。
	EMボカシ (4.3・1.7・1.2) 米ぬかペレット (2.0・3.7・1.4)	○秋に散布する事で有機物の分解を促しコナギ等の発芽に与える影響を減少。

※()内数値はN・P・Kです